

シリーズ第27回

笛吹市探訪 武田氏と笛吹市⑤

— 境川町石橋地区 —

石橋の地名は、小さな川に石の橋が架かっていたことに由来しますが、残念ながら今は残っていません。石橋は以前紹介した板額姫（はながくひめ）の娘の嫁ぎ先である石橋氏が館を構えていたと言われています。その場所は、先屋敷（せんやしき）という小字一帯と想定されていますが、度重なる境川の氾濫でその痕跡は残っていません。

石橋氏については、甲斐武田氏の第五代当主の武田信光（のぶみつ）の子供である、八郎信継（のぶつぐ）が石橋氏と称し、その子供が太郎と伝わっているだけで、実はあまりよくわかっていません。ただ、吉祥寺（きちじょうじ）にはこの信継の位牌が安置され、仁治2（1241）年11月3日卒と記されています。また、この吉祥寺は横道三十三観世音菩薩霊場の第一番札所に指定されています。



石橋八幡神社

一方、石橋八幡神社には、甲斐源氏の祖と言われる新羅三郎義光（しんらさぶろつよしみつ）など武田氏の代々から寄進を受けたという棟札（むなふだ）の写しが残っています。特に、市指定文化財の本殿は、棟札から天文14（1545）年に武田晴信（信玄）が再建したと考えられます。また、隋神門（ずいしんもん）に



石橋八幡神社左大臣像（左）/右大臣像（右）

は左大臣・右大臣像が安置されています。これは信玄の父である武田信虎の寄進といわれ、像の底部の墨書から大永3（1523）年に制作され、棟札から大永6年に隋神門を再建したことがうかがえます。さらに、この墨書には石橋庄と記載されていることから、この地に莊園があった唯一の記録



大石寺火渡り

となっております。石橋庄は、石橋から三柵・大坪に広がる石橋条里一帯が相当すると考えられます。ところで、石橋と八代町米倉の境に流れる狐川については、こんな民話が伝わっています。ある日、武田信玄公があるお寺にお参りした帰りに道に迷い、この川のほとりに出ました。途方にくれていたところ、一匹の白狐が通り、スイツと消えてしまったそうです。家来がその方向に行ってみると、広い道がのびていて、無事館に戻る事ができたそうです。それから人々はこの川を狐川と呼ぶようになったそうです。毎年4月4日には、大石寺（だいせきじ）で無病息災を祈って火渡りの儀が行われ、この地域の春の風物詩として知られています。